キャラクター名
伊月 壮真（ いつき そうま ）

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ キュマイラ	ワークス	高校生	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	16	性別	男
覚醒	感染	衝動	破壊	初期侵食率	30 %
出自	政治権力	経験	大事故	邂逅	忘却

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	6	1	0			7
感覚	0	0	1			1
精神	0	0	2			2
社会	2	0	0			2

HP	36
行動値	4
(非装備時)	4
戦闘移動	9
全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			ＲＣ	2		交渉	1	
回避	2		知覚	1		意志	2		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報： 噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
素手	白兵	7r+1	0	-5		
素手(破壊の爪)	白兵	7r+1	1	LV+8		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
強化服	1	1			

合計装甲：	1	合計回避：	0

所持品	
思い出の一品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
羅刹（キュマイラ専用）	P	N		
伊月 陽鞠	P 庇護	N 恐怖		
数住 虚曖	P 好奇心	N 隔意		
水瀬 瑠璃	P 友情	N 嫉妬		
柿原 五郎	P 幸福感	N 猜疑心		
板垣 昂太郎	P 尊敬	N 嫉妬		
稲葉市	P 遺志	N 無関心		

最大財産P: 4	残り財産P： 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
コンセントレイト：キュマイラ	2	2	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果： クリティカル値を-LV（下限値7）								
破壊の爪	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果： シーン中素手のデータを変更する。								
完全獣化	2	6	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果： シーン中の【肉体】を使用した全判定のダイス+[LV+2]個。エフェクト使用中は素手以外のアイテムは全て装備・使用不可。								
剛身獣化	2	6	マイナー	至近	自身	自動	ピュア	
効果： シーン中、攻撃力+[LV×2]、装甲値+[LV×3]								
獣の力	1	2	メジャー	武器	-	白兵	-	
効果： 白兵攻撃+[LV×2]								
鋭敏感覚	1	-	メジャー	-	-	自動	-	
効果 :周囲の状況変化に敏感になったり、より広範囲を探索できるようになる。GMは必要と感じたなら<知覚>による判定を行わせてもよい。								
超人的代謝	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

‥ ‥ ‥ ‥ ‥ ‥ ‥

キミは県立稲場高校に通う高校生だ。キミには友人や彼女のような存在「水瀬瑠璃」がいる。
キミはここ最近、彼女の顔が暗い事に気づいている。
事情を聞いてもはぐらかされてばかりだったが、ある日彼女にショッピングモールに行かないか、と誘われる。
どこか、覚悟の決まった雰囲気をしている彼女に押されショッピングモールに行った当日。
彼女と2人でショッピングモールを歩いていると、突如ショッピングモールが轟音を響かせ爆発する。
降り注ぐ瓦礫に押しつぶされたキミは薄れる意識の中、懸命にキミに声をかけ、助け出そうとする水瀬瑠璃の声が聞こえていた。

‥ ‥ ‥ ‥ ‥ ‥ ‥

物静かで口数は少ないが、正義感が強く激情型。
友人は多くないが、基本的に人が良いので割と慕われている。

親が政治家で教育に厳しく、指示に従わないと平手打ちをされたり怒鳴りられるなどが日常的な環境で育った。
そんな親の事を好く筈もなく、本人も反発するため関係性はかなりの不仲。家庭内の空気は最悪。
反発心から陸上を始めたが、風に乗って走る瞬間がとても心地よくいつしか自分の中で陸上が大きなものになっていた。
幸いなことに才能にも恵まれていたのか全国大会などでも活躍するように。
そんなある日、大会の帰りに大型トラックの事故に巻き込まれ選手選手生命を絶たれた。
それ以来、何にも気が入らないといった様子でぼんやりと日常を過ごしている。